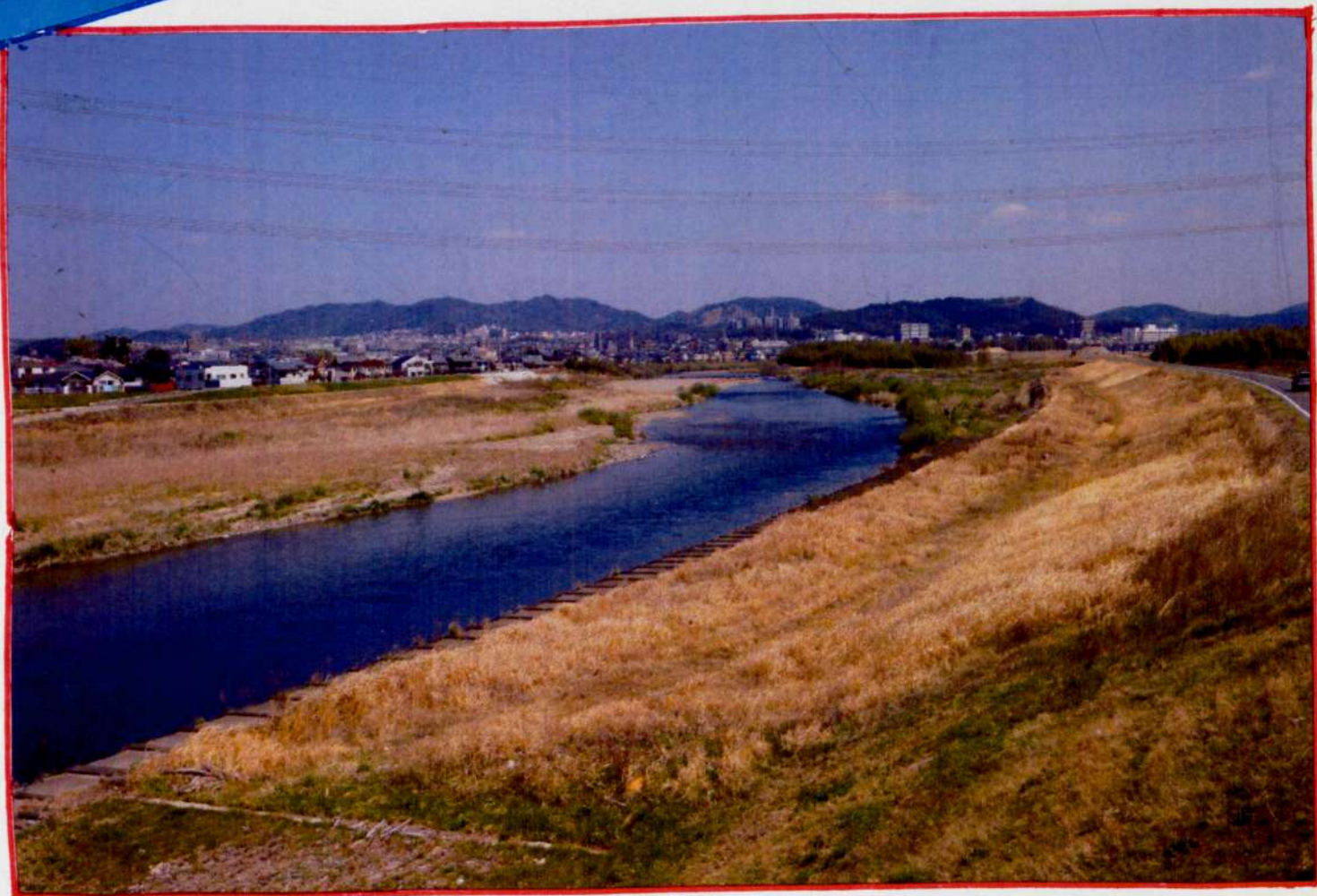


庄内川丸わかし



Buzz



目次

1、2ページ 川にいる生物

3ページ 川の歴史

4ページ 川の水はなぜなくならないのか?

5、6ページ 川から水があふれたときのこと

7ページ ダムの働き

8ページ 現在の庄内川

9ページ 感想、思ったこと



川の歴史

庄内川の治水事業は慶長15年(1610年)
徳川義直の名古屋城築城と共に始まると
言われており、同19年に現在の堤防位置に
堤が築かれました。



川の名前の由来

庄内川の名前は昔玉野川、勝川
など流下地の地名で呼ばれており
一貫した呼び名がありませんでした。

徳川時代になり各庄(稲内庄、山田庄など)
を流れる川ということによって庄内川と名
がつけられたと考えられています。しかし、岐阜県では現
在でも土岐川と呼ばれています。これが川の由来。

川の水はなぜなくな らないのか?

川の水は海から始まり、海の水が蒸発して水蒸気となり、それが雲になります。この雲から雨が降り、ダムなどにたまり、川の水に降って水が減らないようになり、ダムなどにたまった水はそこから川にもらたります。その川の水が海に流れて、また同じように繰り返される。このようなことを循環という。



川から水が

洪水

洪水とは雨や雪解けによって川の水量がふだんよりいちじるしく増えた状態をいいます。

氾濫

氾濫とは雨などによって町や農地などに水があふれることで、川から水があふれることと外水氾濫といっています。

2000年に東海豪雨という豪雨がありました。その際に庄内川が氾濫しました。その時に使われたのがこの水門です。この水門が開くと川の水が公園のほうに流れていきます。これで川の水位が保てることができます。川があふれてもこのような施設もあります。



ここが
ここが

あふれたときのこと

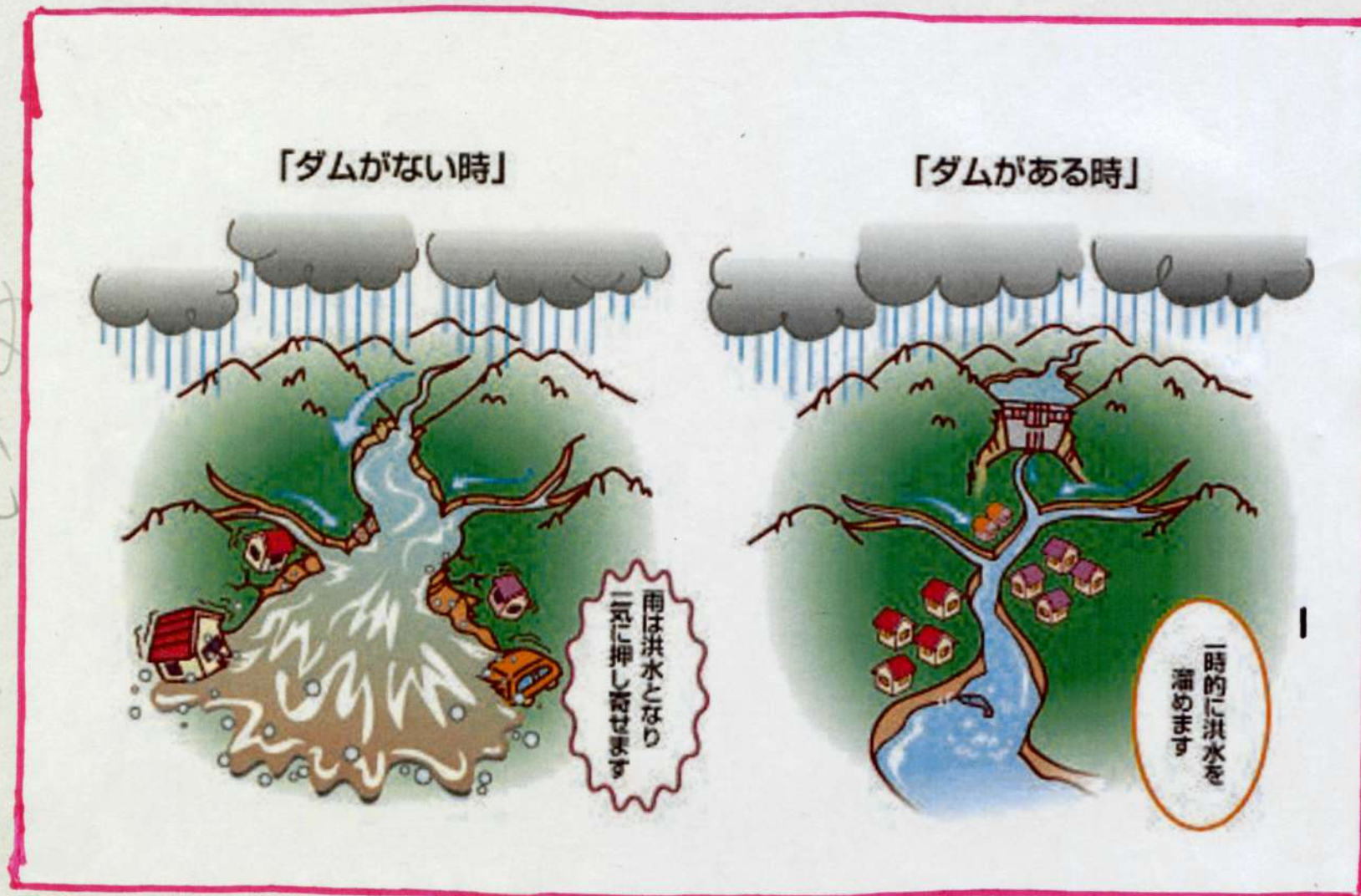
川があふれて避難する際にとにかく高い所に逃げるといのが大切です。このような避難できるところには避難マークがあります。このような所に逃げる必要があります。このようなマークは、ビルや学校、少し高い山などにあふれます。次は避難するときに必要な防災グッズをふたつか準備をすることが大切です。防災グッズは飲料水、食料、衛生用品、生理用品、医薬品、季節用品などを避難する際にあると安心です。このように川から水があふれても、最初から準備をすることが大切です。準備を心がけましょう。



ダムの働き

ダムには大きく2つの働きがあります。一つは大雨のときに洪水をダムに貯める治水機能。もう一つはダムに貯めた水を放流して水道水などに活用してもらう利水機能です。この両方の働きを持つダムのことを「多目的ダム」といいます。ダムがある時とない時のちがいは、ダムがない時は雨が降ると川の水位が上

り洪水してしまいます。しかしある時は雨が一気に流れないように、ダムに貯められて洪水を防ぐことができます。



現在の庄内川

庄内川に直接行って言周ってきました。庄内川に行ったらまず水を見ました。その時の水質は少し濁っていました。そして陸を見たらたくさんのゴミが落ちていました。これらはポイ捨てや、不法投棄などが原因だと思われれます。現在の庄内川を見たらこれが川を汚す原因だと思えます。ゴミをポイ捨てないようにしましょう。



感想・思ったこと

感想

庄内川について調べてたくさん言葉が
あると感^じました。川を
大切にすることは自然を
大切にするのと同じだと思い
ます。川は身近な自然というので
大切にしていかなければならないと
感^じました。

思ったこと

庄内川について思ったこと
は、生物がたくさん生きていて、
それが庄内川にいるということだ。
小さな魚や大きな魚がいました。
生物からしたら、庄内川は生
きやすいところというので、豊かだと思いました。

